久留米教区

親鸞聖人入門講座

テキスト

― 求 道 ―

私たちの宗旨は浄土真宗です

【本尊】　　…阿弥陀如来
【正依の経典】…仏説無量寿経（大経）
　※三部経　　仏説観無量寿経（観経）
　　仏説阿弥陀経（小経）
【宗祖】　　…親鸞聖人
【宗祖の主著】…顕浄土真実教行証文類（教行信証）
【宗派名】　　…真宗大谷派
【本山】　　…真宗本廟（東本願寺）

※親鸞聖人の伝記には、不明確な部分が多く、ことがらによっては諸説あるものもあります。本テキストでは、『浄土の真宗』、『親鸞　生涯と教え』、『親鸞聖人伝絵　―御伝鈔に学ぶ―』、『はじめて読む　親鸞聖人のご生涯』（以上、東本願寺出版）、『まんが宗祖親鸞聖人』（難波別院）、『親鸞聖人　御絵伝を読み解く』（法蔵館）を参考にしました。

求道（ぐどう）

親鸞聖人は９歳で出家されたのち、①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の延暦寺ですごされました。そこでの修行の一つは聖人の妻である②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿が晩年のお手紙で、「殿（との）の比叡（ひえい）の山（やま）に堂僧（どうそう）つとめておわしましけるが」（『恵信尼消息（えしんにしょうそく）』）と記されています。聖人は比叡山の常行三昧堂（じょうぎょうさんまいどう）で阿弥陀仏像のまわりを歩きながら、※1不断念仏（ふだんねんぶつ）を修める堂僧をされておられたのです。

しかし、※2「定水（じょうすい）を凝（こ）らすと雖（いえど）も識浪頻（しきろうしき）りに動（うご）き、心（しん）月（げつ）を観（かん）ずと雖（いえど）も妄雲猶覆（もううんなおおお）う」と※3『歎徳文（たんどくもん）』にあるよう

に、どれだけ修行と学問にはげんでも、さとりを開く道を見いだすことはできませんでした。聖人は心をしずめようとしても、しずめることのできない自分自身に悩み抜かれました。

建仁（けんにん）元年（1201）の春、２９歳の聖人は、歩むべき道を求めて③ゆかりの六角堂（ろっかくどう）に１００日間こもられることを決意されました。そして、９５日目の暁に救世観音菩薩（くせかんのんぼさつ）からお告げ（夢告（むこく））を受けたと伝えられています。

聖人はこの夢告にみちびかれて、かねてより耳にしていた法然（ほうねん）上人をたずねて、吉水（よしみず）の草庵へ向かいました。

◇補　注

※1 一定の期間中、昼夜絶え間なく常に念仏を唱えること。

※2 （現代語訳）「心をしずめようとしても意識は浪（なみ）のように動き、清らかな心を観ようとしても迷いの雲が覆ってしまう」

※3 本願寺第３代覚如（かくにょ）上人の子・存覚（ぞんかく）上人の著作。

恵信尼公（1182 年生－1268 年頃没）

親鸞聖人の妻である恵信尼公は、越後の豪族の出身ともいわれていますが、出自については未だはっきりしていません。聖人が越後に流罪ののち、関東に赴かれる建保４年（1214）の頃には子と共に同行されています。

大正１０年（1921）に『恵信尼消息』（１０通のお手紙）が西本願寺の宝物庫から発見されたことによって、その当時、架空の人物ではないかとさえ疑われていた聖人の実在が証明されました。

またこのお手紙には、恵信尼公が親鸞聖人を観音菩薩の化身と夢想したという記述や、夫婦間のやり取りも描写されています。

聖徳太子（574 年生－622 年没）

飛鳥時代の皇族で厩戸（うまやど）皇子のこと。推古天皇の摂政として、冠位十二階や十七条憲法を定め、四天王寺や法隆寺を建立するなど仏教を篤く信仰し、興隆につとめられました。

聖徳太子は救世観音菩薩の生まれかわりとして信仰されてきました。親鸞聖人も、建久２年（1191）、19 歳の時に大阪磯長の聖徳太子廟、建仁元年（1201）、29 歳の時に六角堂に参籠されています。

六角堂と夢告

当時の六角堂には、聖徳太子を信仰する多くの人びとが、身分のちがいを越えて、お参りしていたといわれています。

親鸞聖人が六角堂で受けられた夢のお告げは、『行者宿報偈』といわれます。「行者宿報にして設い女犯すとも　我玉女の身と成りて犯せられん　一生の間能く荘厳して　臨終に引導して極楽に生ぜしめん」「此は是我が誓願なり、善信この誓願の旨趣を宣説して、一切群生にきかしむべし」

（意訳）「親鸞よ、恐れることなく歩みなさい。もしあなたが、人間として生きる上で、どうしても女性を求めずには生きられない身であるならば、この私が妻（伴侶）となって、あなたとともに、与えられた現実を受け止め、必ずや仏の国に導きましょう。」「親鸞よ、この私の願いの真意を受け止め、すべての人びとに伝えなさい。」

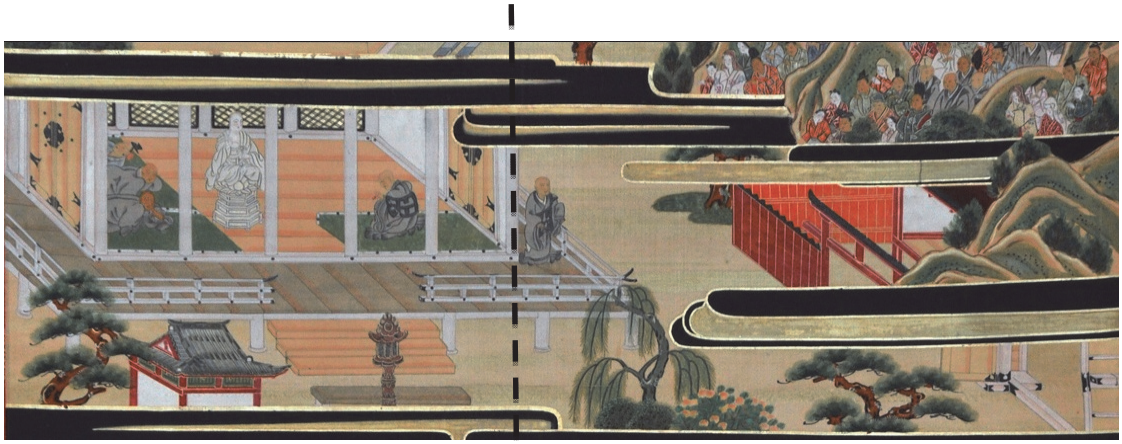
☆話し合いのポイント例

- 悩んだとき、どうしていますか？
- あなたの生きがい
- あなたの夢
- 何を求めていますか？
- 聖徳太子のイメージ

メモ

『御絵伝』について

初幅（第四図）



左図　六角夢想　　右図　旨趣宣説

左図は六角堂で救世観音菩薩から、夢告を受けられている場面です。座っている親鸞聖人が、白い袈裟を着けた救世観音菩薩から『行者宿報偈』の教えを受けられています。

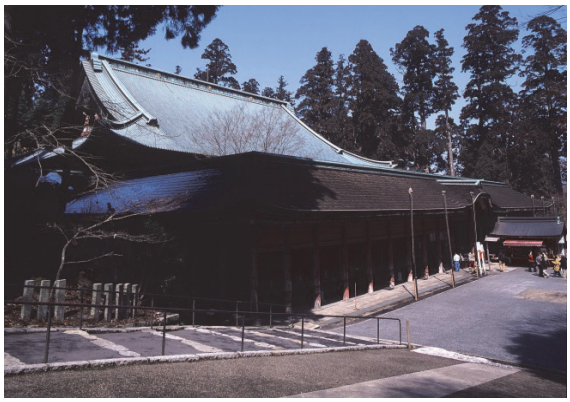
左で寝ている３人は参詣者（一説には、上から関白兼実公、法然上人、親鸞聖人）です。

右図は縁先に立った聖人が、はるか東の山にいる人びとに教えの内容を説いておられるところです。

『御伝鈔』には、教えを伝えることができたと思ったところで、夢から覚めたとあります。

親鸞聖人ゆかりの地紹介

◇比叡山



比叡山延暦寺は、延暦７年（788）伝教大師最澄によって開かれた天台宗総本山です。古くは日本仏教の最高学府・根本道場として、多くの僧が勉学に努めました。比叡山には根本中堂（写真左）のほか、無動寺谷大乗院（写真右）や横川中堂があります。

無動寺谷大乗院は、聖人が青蓮院で出家されたのち、比叡山に上って最初に勉学された地といわれています。また聖人自作と伝えられる、蕎麦喰木像が安置されています。現存はしませんが、横川の楞厳三昧院の常行堂で、堂僧をしておられたことが『恵信尼消息』などから伺われます。

所在地／滋賀県大津市坂本本町４２２０

◇六角堂（紫雲山頂法寺）

本堂が六角形であることから六角堂と呼ばれています。寺伝によると、聖徳太子が四天王寺を建立するための用材を求めてこの地を訪れたとき、観音堂を建てる決意をされたことが起源であるとされます。

その池のほとりに建てた坊舎を“池坊”といい、のちに華道の拠点となりました。

聖人の在世当時、「六角堂の観音は夢に出現し、詩歌の形式で出来事を予言する」と信じられていたようです。また境内には「親鸞堂」が建立され、“草鞋の御影”を安置しています。

所在地／京都市中京区六角通東洞院西入ル堂之前町２４８